

目次

1. カードのイメージを決める	2
① Anki 用語イメージ（予習）	2
② カードのイメージを決める	2
2. デッキのベースを作成する（20分）	3
① デッキを作る.....	3
② ノートタイプを作る.....	3
③ フィールドを作る.....	5
④ カードをデザインする	6
⑤ 作業を中断する	9
3. カードのイメージを復習する	10
① Anki の用語イメージ（復習）	10
4. デッキに内容を設定する（20分）	11
① テキストを設定する	11
② 音声を設定する	12
③ 画像を設定する	15
④ プレビューして保存.....	16
⑤ 一度設定した内容の変更.....	17
⑥ 同期（AnkiWeb へアップロード）	18
⑦ 同期（スマホで同期）	18
5. カードを学習する	19
① カードを学習する	19

設定作業の部分は、作業時間を目安として書いています。

1. カードのイメージを決める

① Anki 用語イメージ (予習)

作る前にちょっとだけ Anki で出てくる用語の解説です。
実際のカードの「内容」を作る前にこれらを作ります。

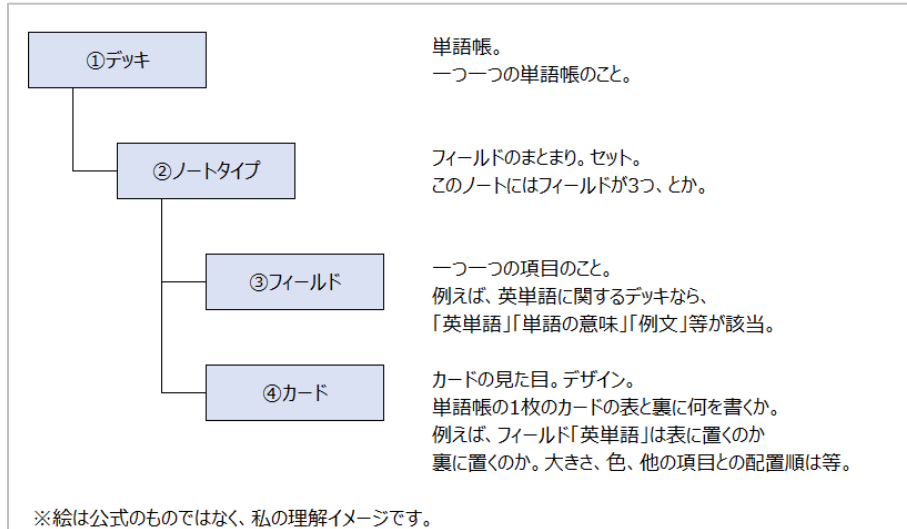


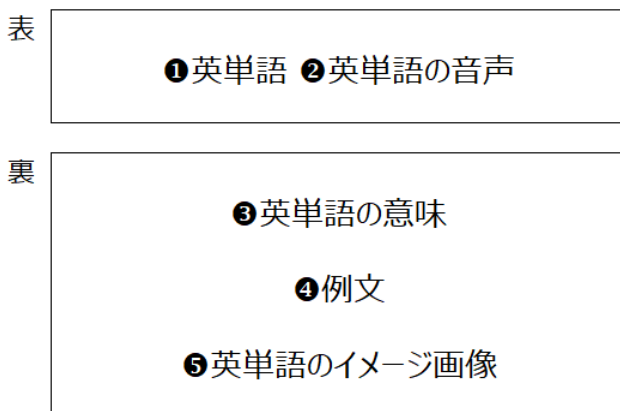
図 1 Anki 用語イメージ

後でも振り返るので、ここではさらっとだけ確認してもらえればよいです。

ちょっと紛らわしいと思うのが、「④カード」かもしれません。本手順上、一般用語的な意味で「カード」(単語帳の1枚1枚イメージ)を使いますが、Ankiの画面上で出てくる「カード」は「④カード」のほうで、どちらかという与设计といったほうがイメージに近いです。(内容が入ってくれば確かにカードではあるのですが…)
現時点ではスルーしてもらって大丈夫です。

② カードのイメージを決める

何の項目を書くのか、表と裏はどうするか、を決めます。
英単語を覚えるとして、こんなカードを作ってみましょう。



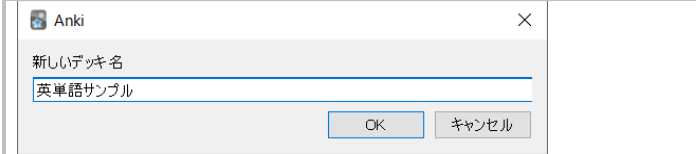
ポイント

・丸付番号は説明のためにつけているものですが、この一つ一つが「フィールド」です。この場合、5 個のフィールドが必要です


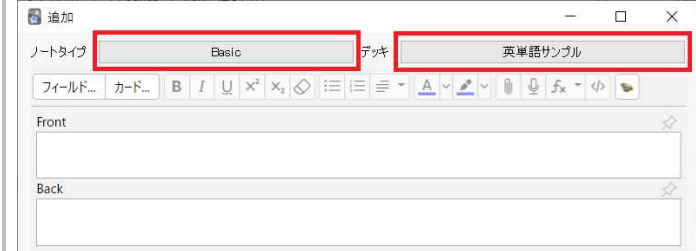
・②や⑤にある通り、音声や画像も付けられるのが Anki の便利なところ

2. デッキのベースを作成する (20分)


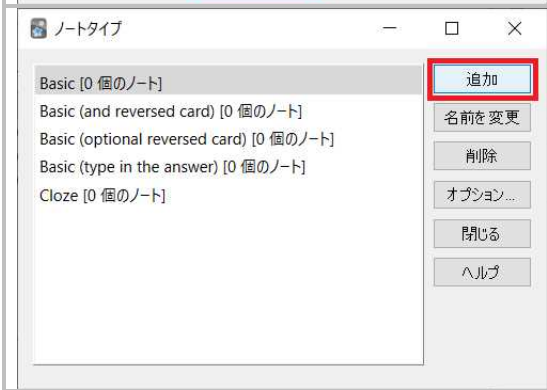
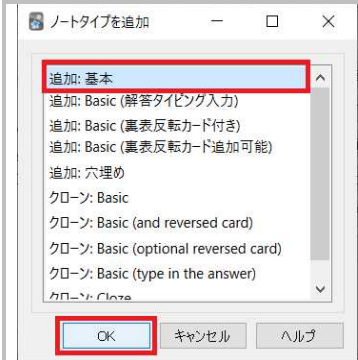
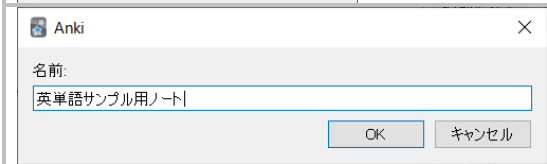
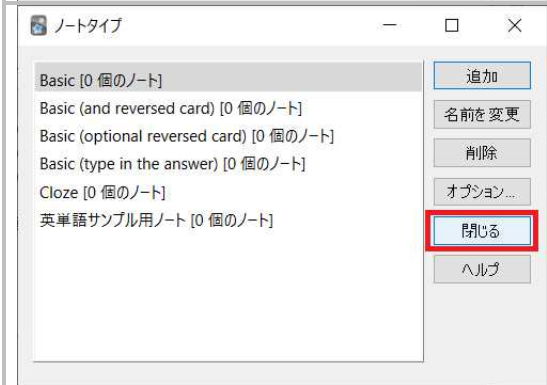
① デッキを作る

	<p>Anki を起動した画面で、[デッキを作成]</p>
	<p>デッキ名「英単語サンプル」を入力して[OK]</p>
	<p>「英単語サンプル」デッキができました！</p>

② ノートタイプを作る

	<p>[追加]</p>
	<p>右側のデッキ名が「英単語サンプル」になっていることを確認して、左側ノートタイプ「Basic」をクリック</p> <p>Basic の位置には、現在選んでいるノートタイプ名が出ます。デフォルトは「Basic」</p>

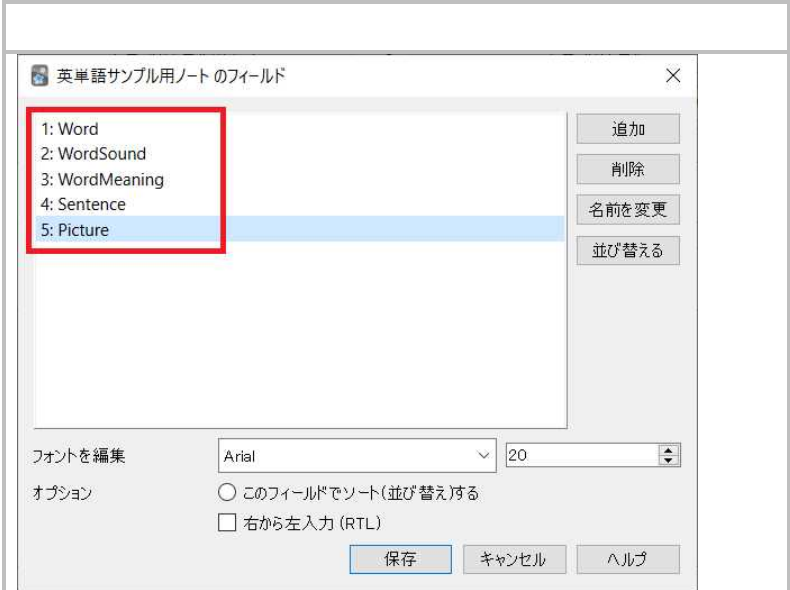
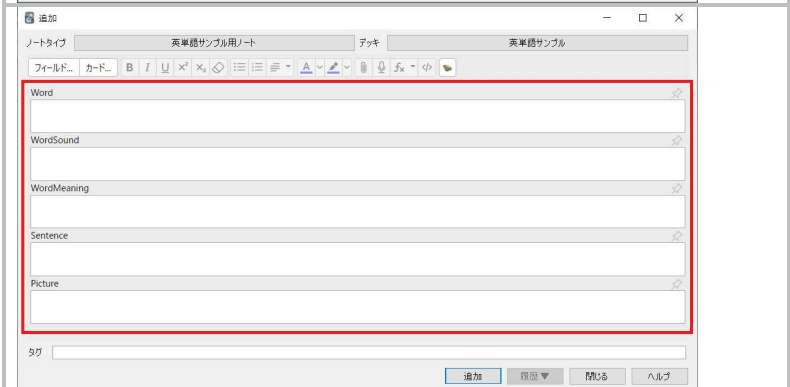
Anki を使ってみる 02.手動でカードを作る for PC

 <p>ノートタイプを選択して下さい</p> <p>フィルター:</p> <ul style="list-style-type: none"> Basic Basic (and reversed card) Basic (optional reversed card) Basic (type in the answer) Cloze <p>選択 ノートタイプの管理 キャンセル ヘルプ</p>		[ノートタイプの管理]
 <p>ノートタイプ</p> <ul style="list-style-type: none"> Basic [0 個のノート] 追加 Basic (and reversed card) [0 個のノート] 名前を変更 Basic (optional reversed card) [0 個のノート] 削除 Basic (type in the answer) [0 個のノート] オプション... Cloze [0 個のノート] 閉じる <p>ヘルプ</p>		[追加]
 <p>ノートタイプを追加</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加: 基本 追加: Basic (解答タイピング入力) 追加: Basic (裏表反転カード付き) 追加: Basic (裏表反転カード追加可能) 追加: 穴埋め クローン: Basic クローン: Basic (and reversed card) クローン: Basic (optional reversed card) クローン: Basic (type in the answer) クローン: Cloze <p>OK キャンセル ヘルプ</p>		[追加:基本]を選んで[OK]
 <p>Anki</p> <p>名前:</p> <p>英単語サンプル用ノート</p> <p>OK キャンセル</p>		[英単語サンプル用ノート]にして[OK]
 <p>ノートタイプ</p> <ul style="list-style-type: none"> Basic [0 個のノート] 追加 Basic (and reversed card) [0 個のノート] 名前を変更 Basic (optional reversed card) [0 個のノート] 削除 Basic (type in the answer) [0 個のノート] オプション... Cloze [0 個のノート] 閉じる 英単語サンプル用ノート [0 個のノート] ヘルプ 		[閉じる]

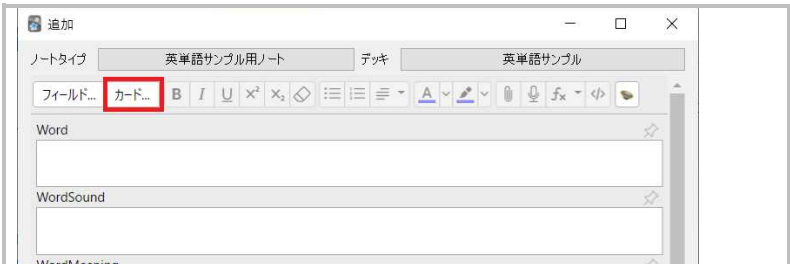
		<p>「英単語サンプル用ノート」を選び[選択]</p>
		<p>ノートタイプが「英単語サンプル用ノート」になっていることを確認。 ノートタイプができました！</p>

③ フィールドを作る

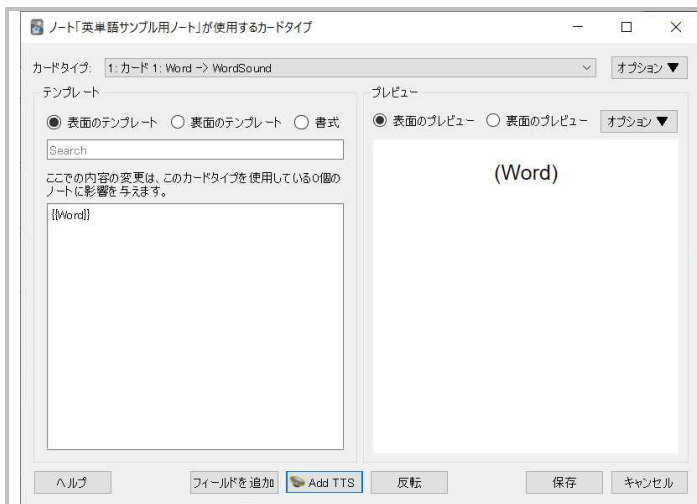
	<p>フィールドはデフォルトが「表面」「裏面」の2つの項目になっていますので、カスタマイズします</p>
	<p>[フィールド]</p>
	<p>個別に画面をつけると手順の枚数がかさむので、やり方を書きます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「1:表面」を選び「名前を変更」でフィールド名に「Word」を入れて[OK] 2. 「2:裏面」を選び「名前を変更」で「WordSound」を入れて[OK] 3. [追加]で「WordMeaning」を入れて[OK] ※「要求した変更を行うには、次回のコレクションの同期の～」というメッセージが出たら「はい」 4. [追加]で「Sentence」を入れて「OK」

	<p>5. [追加]で「Picture」を入れて「OK」</p> <p>1:Word 2:WordSound 3:WordMeaning 4:Sentence 5:Picture となったことを確認して「保存」</p> <p>フィールド名には日本語も使えますが、 後述のカード (html) 中で利用することもあり、半角英字がお勧めです</p>
	<p>フィールドができました！</p>

④ カードをデザインする

	<p>[カード]</p>
---	--------------

Anki を使ってみる 02.手動でカードを作る for PC

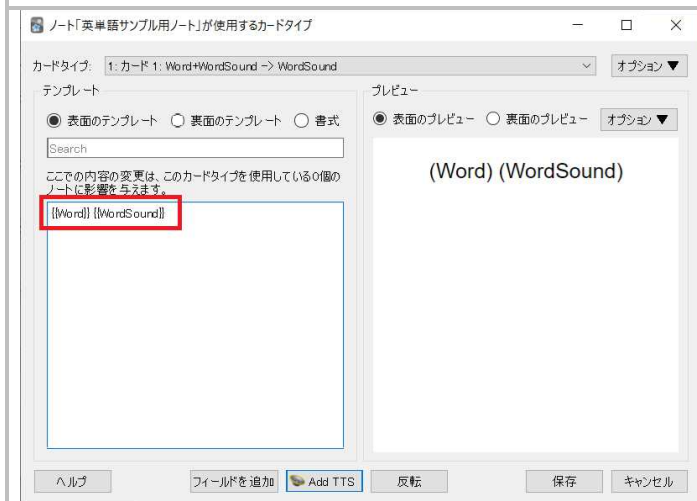


「表面のテンプレート」が選ばれていて
左下に{{Word}}と出ています。
これは表には「Word」の項目だけ表示するよ、と
いう設定です

項目（フィールド）を書くときには、前後を{{}}
でくる必要があります

右の画面は(Word)となっていますが、こちらはプレ
ビューで、こう見えるよ、というのを見せてくれていま
す

[フィールドを追加] からも、フィールドを追加できるの
ですが、div タグもついてくるので、私は使っていません。使っても
大丈夫です。お好みです



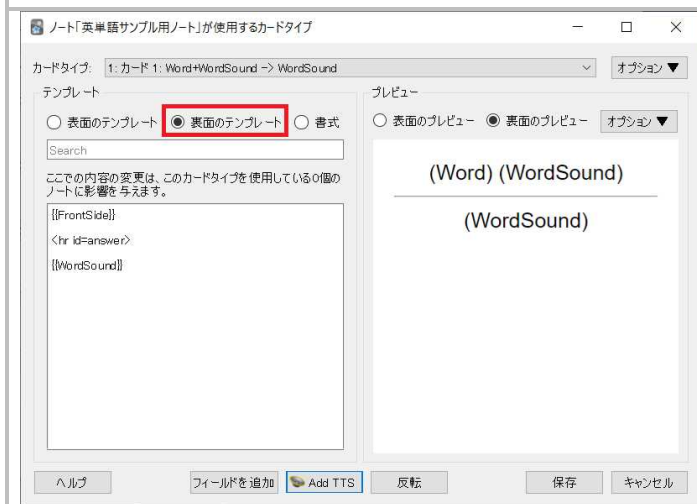
{{Word}}
となっている行を次の通りに変更します

```

        {{{Word}}} {{{WordSound}}}
    
```

 {{{Word}}} と {{{WordSound}}}
の間は半角
スペースを入れています、なくても問題はないで
す

プレビューがちゃんと表示されているか確認してくだ
さい（スペルミスすると、右側プレビュー画面がエラ
ーになります）




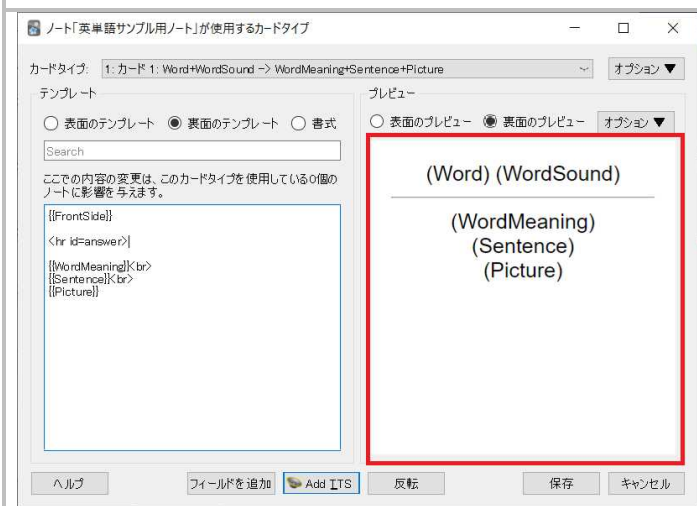
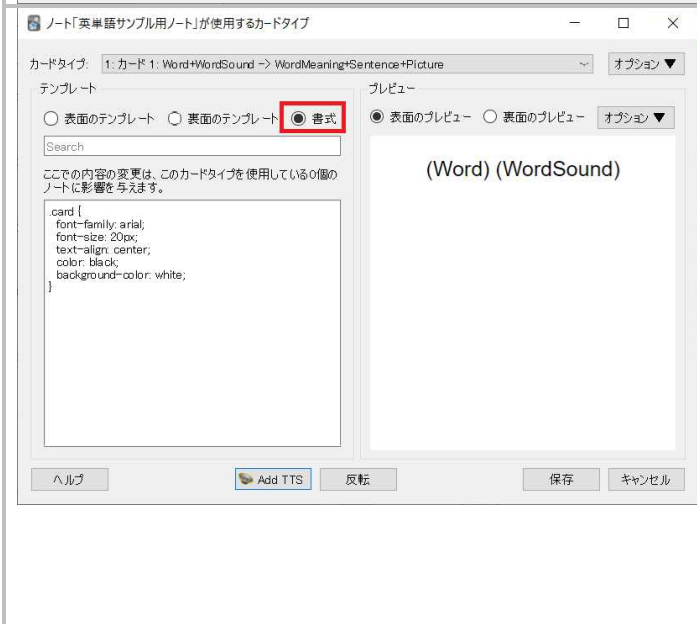
「裏面のテンプレート」を選ぶ

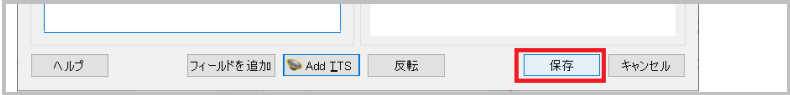
下記の通りになっています
(改行だけの行は省略)

```

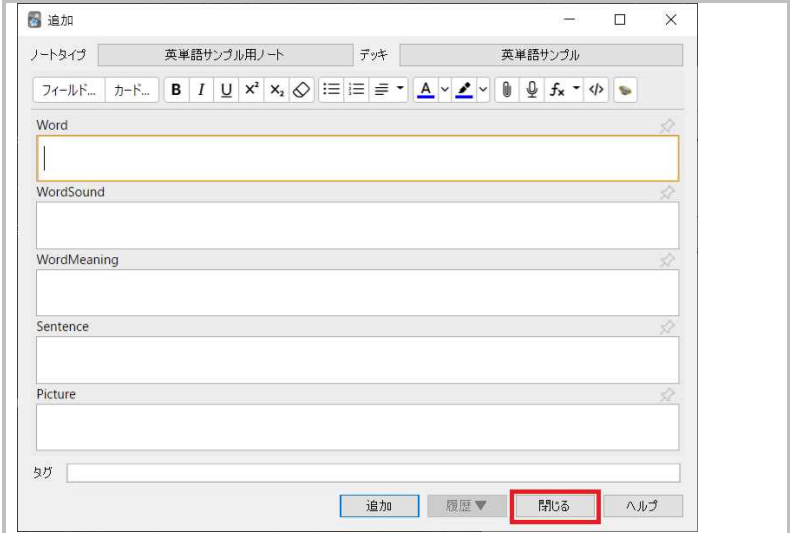
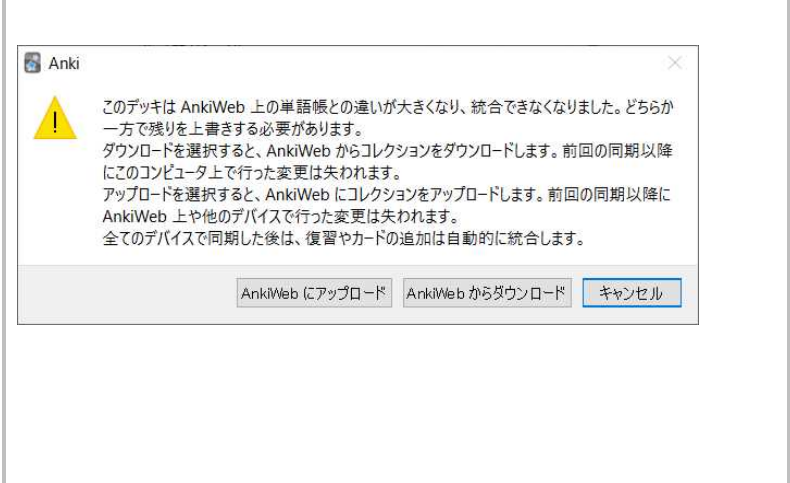
        {{{FrontSide}}} ← 表面を表示してね
        <hr id=answer> ← 右プレビュー画面に出て
        いるグレーの線です
        {{{WordSound}}} ← WordSound の項目
    
```

Anki を使ってみる 02. 手動でカードを作る for PC

 <p>テンプレート</p> <p><input type="radio"/> 表面のテンプレート <input checked="" type="radio"/> 裏面のテンプレート <input type="radio"/> 書式</p> <p>Search</p> <p>ここでの内容の変更は、このカードタイプを使用している0個のノートに影響を与えます。</p> <pre> [[FrontSide]] <hr id=answer> [[WordSound]] </pre> <p>テンプレート</p> <p><input type="radio"/> 表面のテンプレート <input checked="" type="radio"/> 裏面のテンプレート <input type="radio"/> 書式</p> <p>Search</p> <p>ここでの内容の変更は、このカードタイプを使用している0個のノートに影響を与えます。</p> <pre> [[FrontSide]] <hr id=answer> [[WordMeaning]]
 [[Sentence]]
 [[Picture]] </pre>	<p>裏面のテンプレートを次の通りに変更します。 コピペできるように全量書いておきます（変更しているのは後ろの3行）</p> <pre> {{FrontSide}} <hr id=answer> {{WordMeaning}}
 {{Sentence}}
 {{Picture}} </pre> <p>
は html における改行です</p>
 <p>ノート「英単語サンプルノート」が使用するカードタイプ</p> <p>カードタイプ: 1: カード 1: Word+WordSound -> WordMeaning+Sentence+Picture</p> <p>テンプレート</p> <p><input type="radio"/> 表面のテンプレート <input checked="" type="radio"/> 裏面のテンプレート <input type="radio"/> 書式</p> <p>Search</p> <p>ここでの内容の変更は、このカードタイプを使用している0個のノートに影響を与えます。</p> <pre> [[FrontSide]] <hr id=answer> [[WordMeaning]]
 [[Sentence]]
 [[Picture]] </pre> <p>プレビュー</p> <p><input type="radio"/> 表面のプレビュー <input checked="" type="radio"/> 裏面のプレビュー</p> <p>(Word) (WordSound)</p> <hr/> <p>(WordMeaning) (Sentence) (Picture)</p> <p>ヘルプ フィールドを追加 Add TTS 反転 保存 キャンセル</p>	<p>プレビュー画面がちゃんと表示されていることを確認します</p> <p>プレビューが正しく表示されていない場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> •どこかにスペルミスがある •そもそもフィールド名側でスペルミスしている <p>などが考えられます。</p> <p>いったん今の内容を[保存]してノートタイプ（フィールドの設定）と行き来して、確認してみてください</p>
 <p>ノート「英単語サンプルノート」が使用するカードタイプ</p> <p>カードタイプ: 1: カード 1: Word+WordSound -> WordMeaning+Sentence+Picture</p> <p>テンプレート</p> <p><input type="radio"/> 表面のテンプレート <input type="radio"/> 裏面のテンプレート <input checked="" type="radio"/> 書式</p> <p>Search</p> <p>ここでの内容の変更は、このカードタイプを使用している0個のノートに影響を与えます。</p> <pre> .card { font-family: arial; font-size: 20px; text-align: center; color: black; background-color: white; } </pre> <p>プレビュー</p> <p><input checked="" type="radio"/> 表面のプレビュー <input type="radio"/> 裏面のプレビュー</p> <p>(Word) (WordSound)</p> <p>ヘルプ Add TTS 反転 保存 キャンセル</p>	<p>[書式]を選ぶ</p> <p>ここでは、カードの表裏共通の書式の設定ができます。今回はデフォルトで何が設定されているか、確認のみ</p> <pre> .card { font-family: arial; ←フォントは Arial font-size: 20px; ←フォントサイズ 20px text-align: center; ←中央寄せ color: black; ←色は黒 background-color: white; ←背景色は白 } </pre>

	<p>画面右下[保存]</p>
	<p>カードのデザインができました！</p>

⑤ 作業を中断する

	<p>このあたりで、ぼちぼち Anki を一度終了して休憩する、って方向けに閉じる手順をかいておきます (続ける方はここを飛ばしてください)</p>
	<p>1. [閉じる] 2. 「このデッキは AnkiWeb 上の単語帳との違いが～」というメッセージが出るので、「AnkiWeb にアップロード」</p> <p>【注意】 単語帳に入った変更が大きい場合、Anki(PC)と AnkiWeb のどちらのデータを正とするか聞かれることがあります。アップロードを選んでください。 アップロード：Anki(PC)→AnkiWeb ダウンロード：AnkiWeb→Anki(PC) ※誤ってダウンロードを選んでしまうと初期の状態になってしまいます</p>

3. カードのイメージを復習する

① Anki の用語イメージ（復習）

デッキ名を決めて、ノートタイプ名を決めて、フィールドを作って、カードをデザインしました。
簡単に振り返ってみます。

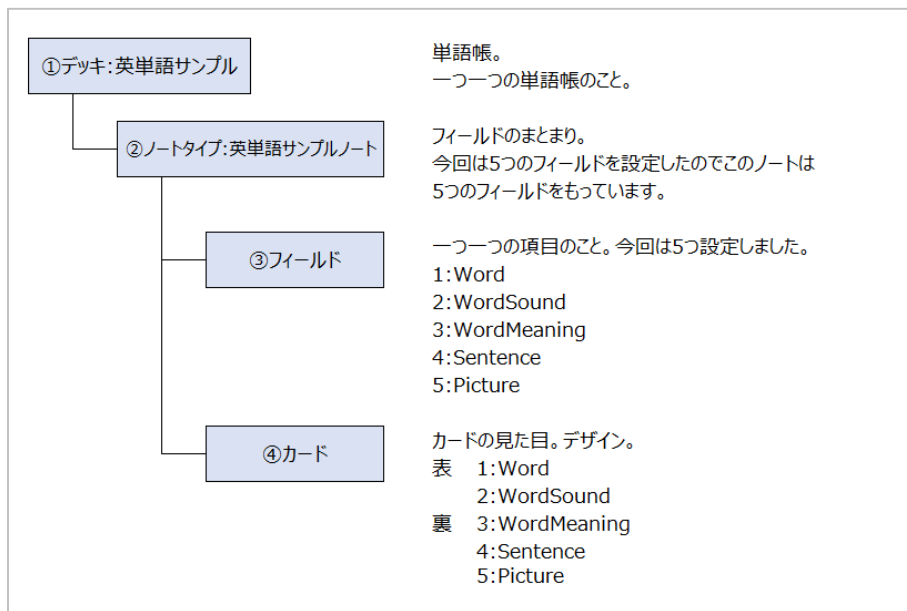
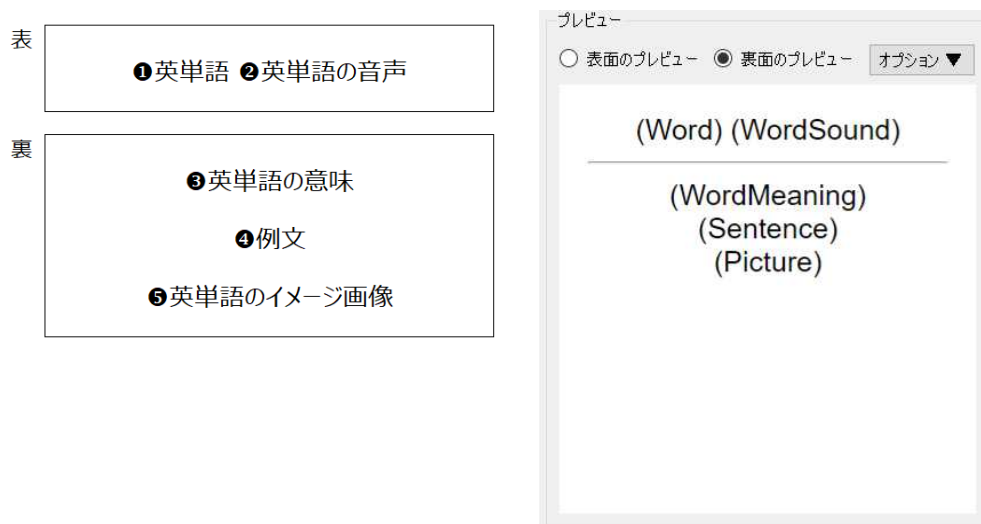


図 2 Anki 用語イメージと今回作成したもの

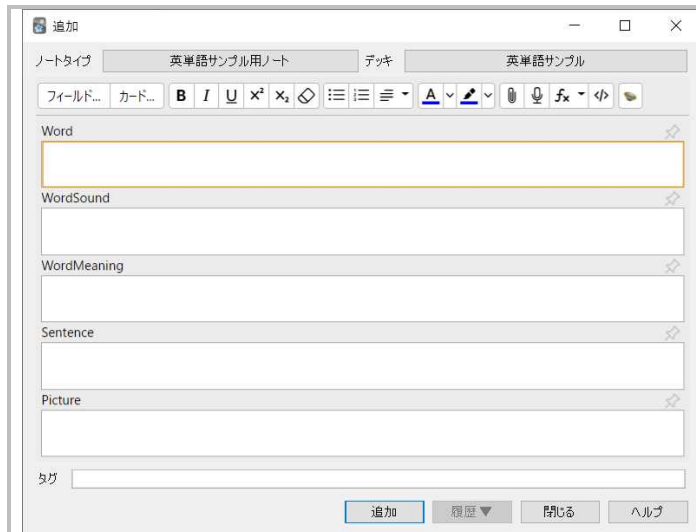


※Anki はデフォルトで裏面に「表面 + 裏面」の内容を出すようになっています。フィールドの{{FrontSide}}です。

図 3 作成したかったイメージ（左）と Anki カードのプレビュー画面（右）

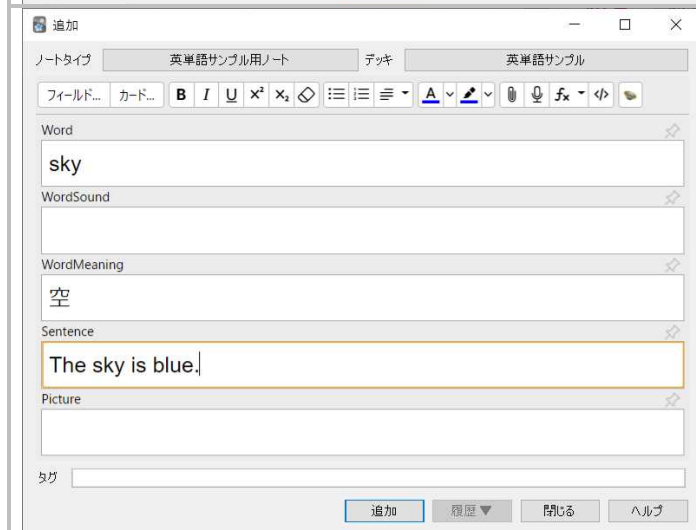
4. デッキに内容を設定する (20分)

① テキストを設定する



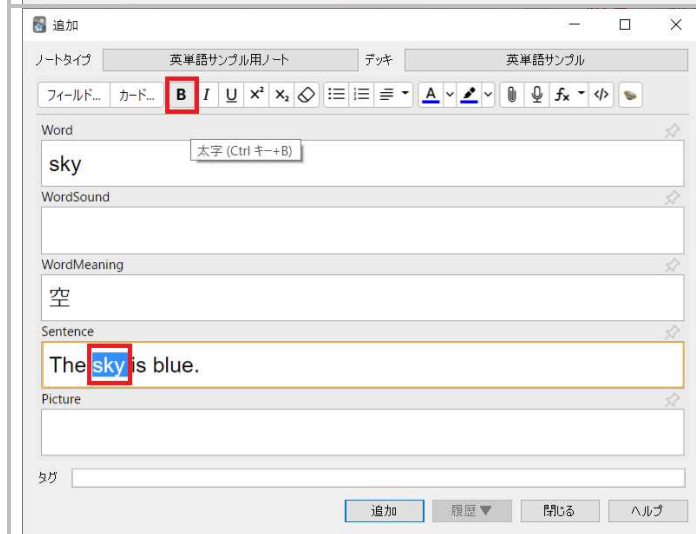
[追加] 画面から始めます

一度 Anki を閉じた方は
最初の画面で「追加」を選び、
ノートタイプ：英単語サンプル用ノート
デッキ：英単語サンプル
が選ばれていることを確認してください



簡単な内容を設定してみます
次のとおり入力します

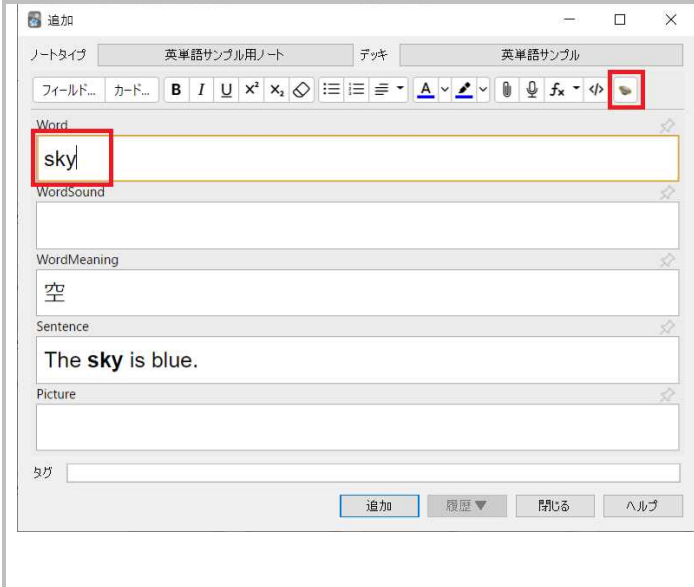


Word : sky
WordMeaning:空
Sentence : The sky is blue.

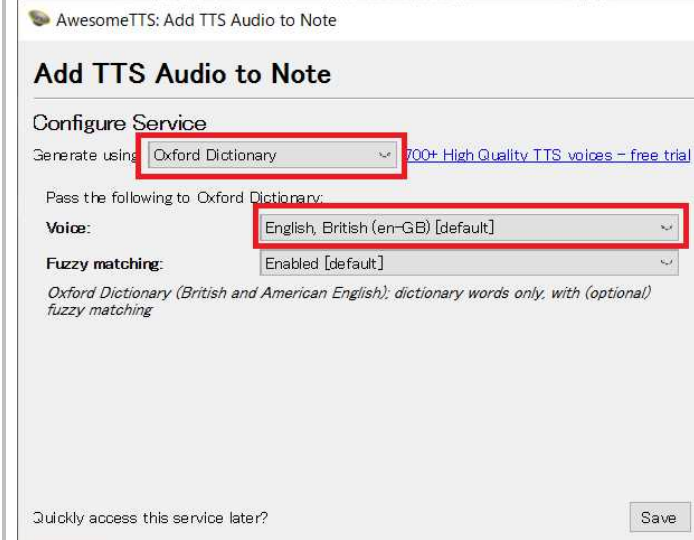


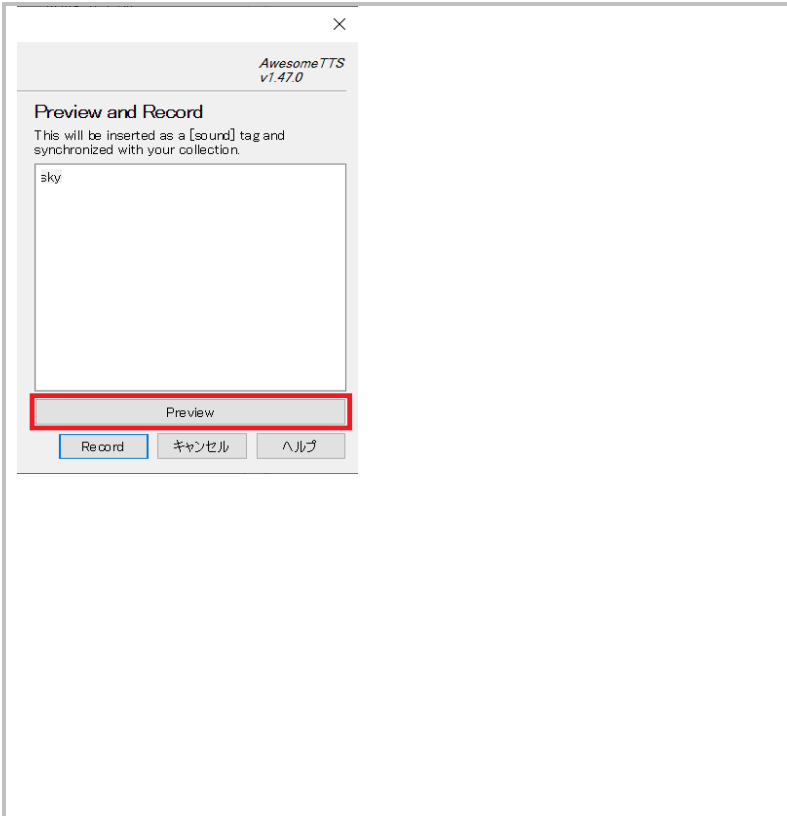
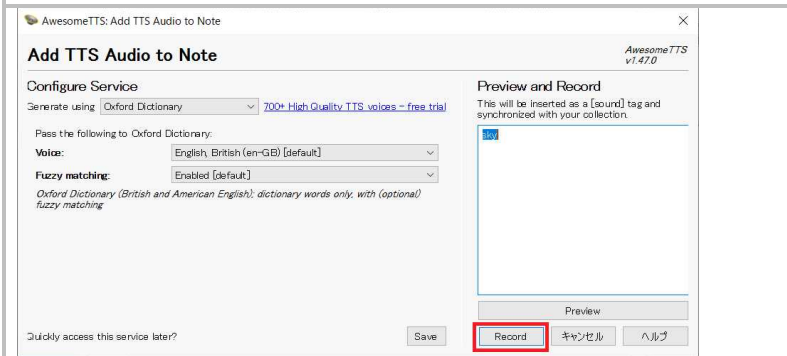
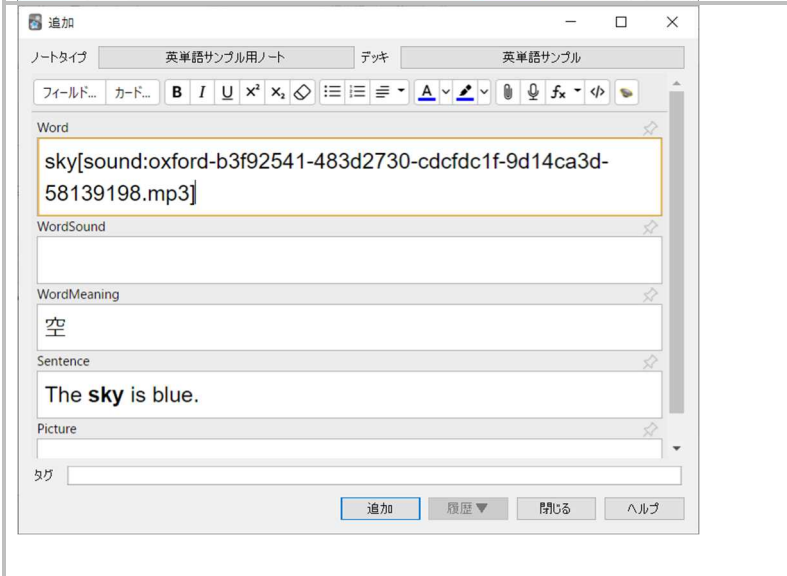
「The sky is blue.」の sky を太字にしてみます
「sky」の部分を選んで、上の「B」ボタンを押す

	<p>太字になりました</p>
---	-----------------

② 音声を設定する

	<p>次は単語の音を入れてみます Word である sky のところを選んでから 右上のスピーカーアイコン  をクリック</p> <p>AwesomeTTS というアドオンの機能になるため、アドオンを入れてないと本手順はできません（アドオンの入れ方は、本手順ではなく、01.セットアップ手順のほうで紹介しています）</p> <p>PC にあるファイルを入れたい場合には、「WordSound」のフィールドを選んで右上にあるクリップのアイコン  を使って入れられます</p>
--	---

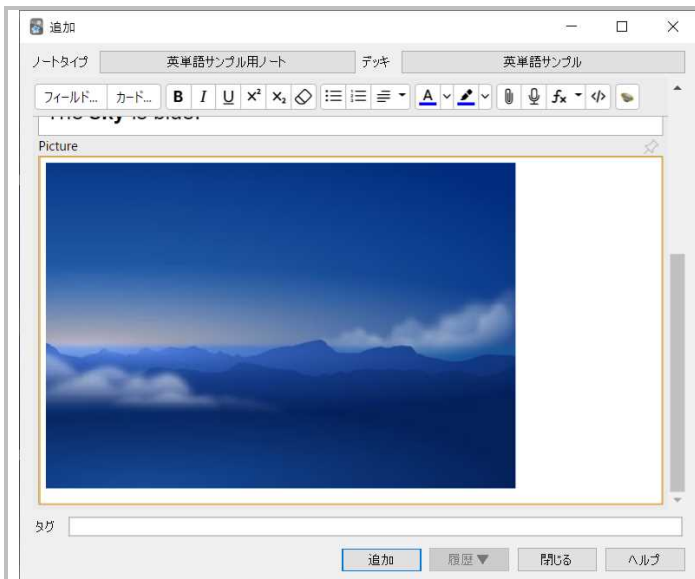
	<p>下記の通り選ぶ</p> <p>Generate using:Oxford Dictionary Voice:English, British(en-GB) [default]</p> <p>Voice:は選択できるものの中から、好きなものを選んでもらってよいです。</p> <p>[Save] というボタンがありますが、これはよく使う設定を保存しておけるものです。お気に入りが見つかったら保存しておくといいです</p>
---	--

	<p>画面右下「Preview」をクリックすると、「sky」という Oxford Dictionary の音が聞こえます</p> <p>Oxford Dictionary でエラーになってしまった場合は Cambridge Dictionary Collins あたりのサービスを使って再実施してみてください</p> <p>[Generate using]を変えることで、いろんな音が選べます。使えるものを使ってください。辞書類は大体使えます（インターネット上から音源を取得しています）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加の設定が必要な場合 有料のサービスで、別途サービス側と契約するか、AwesomeTTS の有料会員になる必要があるもの ・エラーになるものや音が聞こえない場合 AwesomeTTS の対応後にサービス側が仕様を変えています
	<p>[Record]</p>
	<p>「Sky」という音声が入りました</p>


Anki を使ってみる 02. 手動でカードを作る for PC

	<p>このままだとカスタマイズ性がよくないため、 [sound:～mp3]を「WordSound」フィールドに 移動します</p> <p>[sound:～mp3]を選択して、カット 「WordSound」に貼り付けます</p>
	<p>貼り付け後の画面です</p> <p>[sound:音声ファイル名]というのが音声ファイルを書くときの ルールです</p>
<p>[パス] C:¥Users¥%UserName%¥AppData¥Roaming¥Anki2¥ユー ーザー 1¥collection.media ※%UserName%はお使いの PC のユーザー名が入ります</p>	<p>音声ファイルがどこにあるかというと Anki のメディア フォルダにそのまま入っています</p> <p>逆にいうと、ここに音声ファイルを入れて フィールドに[sound:音声ファイル名]と書けば 音声ファイルがカードに入られます</p>

③ 画像を設定する



適当な画像を「Picture」フィールドへコピー
(インターネット等で探してみてください)

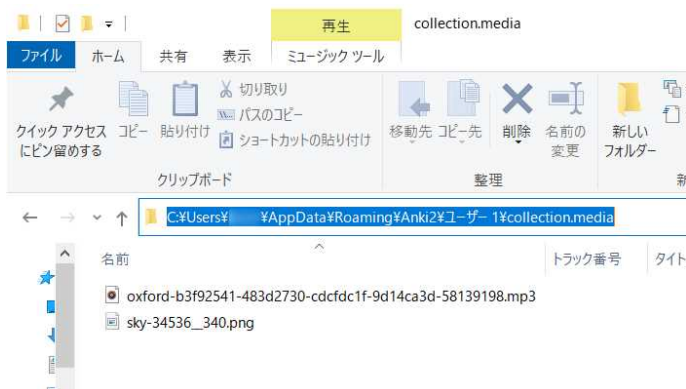
PCにあるファイルを入れたい場合には、
右上にあるクリップのアイコン  を使っても入れられます

画像のサイズは元のサイズに依存します。
アドオンになりますが「ImageResizer」というアドオンがあるので、PCでよく画像を設定したいという人は入れると毎回同じ大きさに設定できて便利だったりします

[パス]

C:\Users\%UserName%\AppData\Roaming\Anki2\ユーザー 1\collection.media

※%UserName%はお使いのPCのユーザー名が入ります

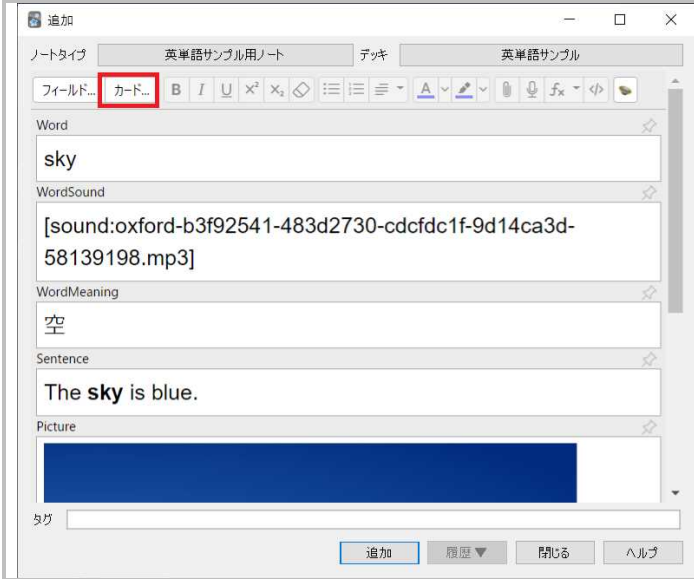

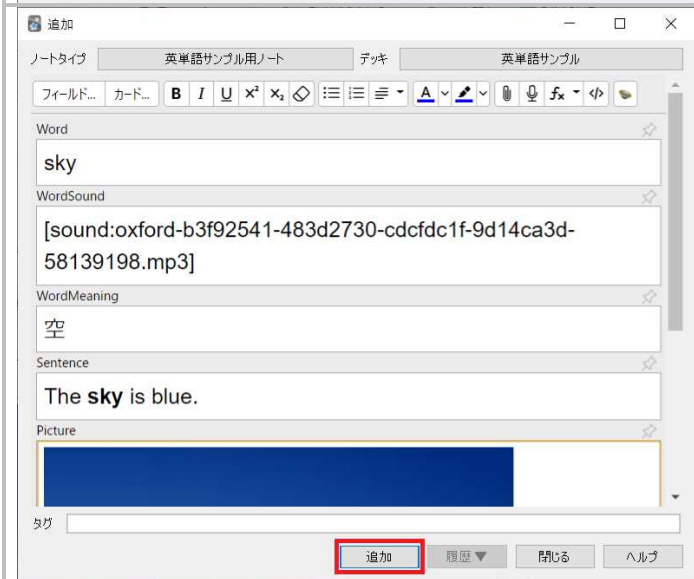


画像ファイルも Anki のメディアフォルダにそのまま入っています

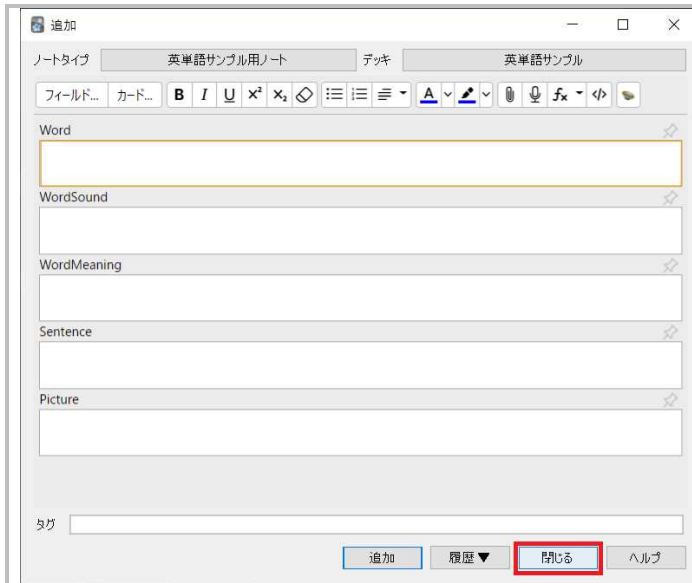
フォルダはその後使いませんが、Anki をガンガン使うつもりなら何かと見たりするのでデスクトップショートカットを作っておくといいと思います

フォルダを閉じます

④ プレビューして保存

	<p>[カード]</p>
	<p>「表面のテンプレート」「裏面のテンプレート」を切り替えて、右側にちゃんと内容が表示されれば OK</p> <p>[キャンセル]で閉じます</p>
	<p>[追加]</p>

Ankiを使ってみる 02.手動でカードを作る for PC

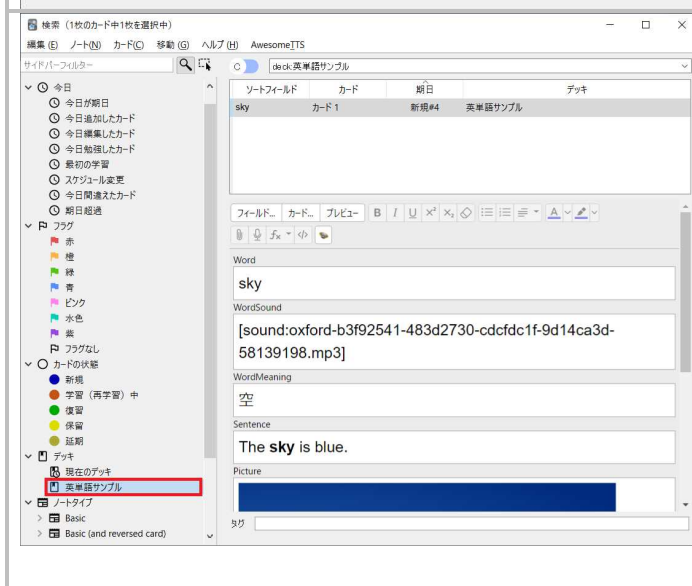


[閉じる]

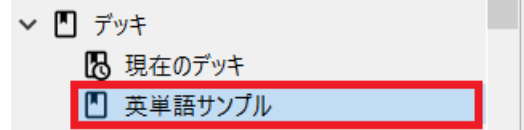
⑤ 一度設定した内容の変更



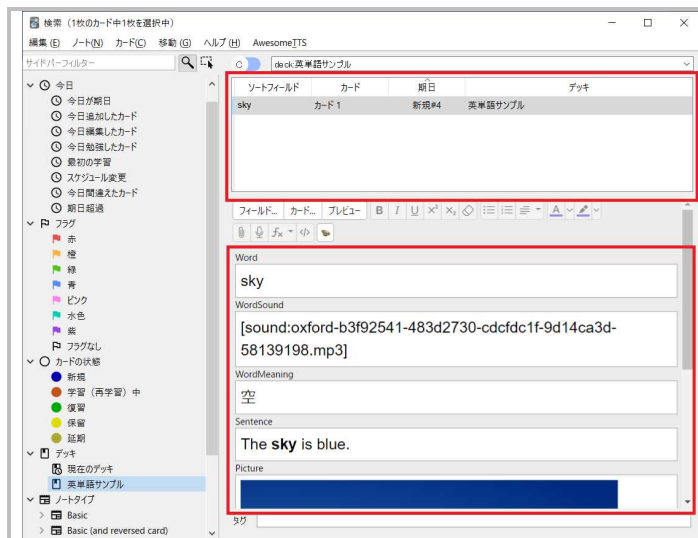
[検索]



左側をスクロールして
デッキの下にある「英語サンプル」を選ぶ



Ankiを使ってみる 02.手動でカードを作る for PC



上側にカードの一覧がでますので、対象のカードを選択すると、下に表示されるので、ここで変更します

「×」で閉じる

⑥ 同期 (AnkiWebへアップロード)

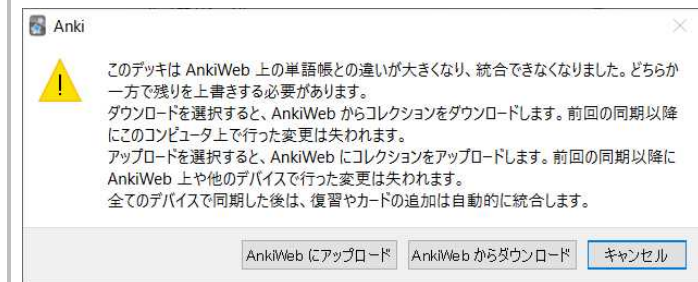


[同期]

「このデッキは AnkiWeb 上の単語帳との違いが～」というメッセージが出たら「AnkiWeb にアップロード」


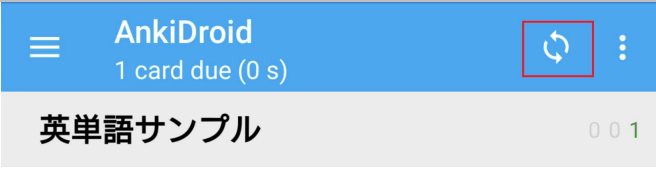

【注意】

単語帳に入った変更が大きい場合、Anki(PC)とAnkiWeb のどちらのデータを正とするか聞かれます。アップロードを選んでください。
 アップロード：Anki(PC)→AnkiWeb
 ダウンロード：AnkiWeb→Anki(PC)
 ※誤ってダウンロードを選んでしまうと AnkiWeb の状態が PC に上書きされます




⑦ 同期 (スマホで同期)

「×」で PC の Anki を終了します

	<p>スマホでお使いの Anki を起動します</p>
	<p>右上の同期アイコン  をタップ</p> <p>同期が実行されて「英単語サンプル」が表示されます</p> <p>大きな変更を加えた場合には（デッキを追加した、フィールドを変更した）、スマホにも早めに同期するのをお勧めします</p> <p>大きなデッキを作成した後や、画像や音声のあるカードをたくさん作成した後の同期は Wifi で実行するのもお忘れなく（データ通信が発生します）。</p>

5. カードを学習する

① カードを学習する

	<p>手順上は PC 版のほうで学習しています</p> <p>PC 版の Anki を起動 (既に起動中なら[デッキ]に移動)</p>
---	---

Ankiを使ってみる 02.手動でカードを作る for PC



セットアップ手順でアドオン「ReviewHeatmap」を入れた人は画面下側に Heatmap が出たと思います

私は色々試しているのですが、実績が計上されて薄緑色になっていますが、みなさんは手順通りやっていけば一つも薄緑色がなくグレーのままかと思います
365 日分のマスが表示されて、たくさんやった日が濃い緑色になる仕組みです



「英単語サンプル」を選ぶ



新規が 1 となっているのが追加したカードです [スタート]

Anki を使ってみる 02.手動でカードを作る for PC

	<p>カードの表側が表示されます</p> <p>[回答を表示]を押すと裏側が表示されます</p>
	<p>表示されたボタンの中から、自分のカードの認識具合を踏まえどれかのボタンを押します</p> <p>もう一度 難しい 正解 簡単</p> <p>ボタンの表示はカードの習熟度合いによって変わっていきます。初期は 4 つですが、3 つになったり、表示される文字が変わったりします</p>
	<p>カードが表示されなくなるまでやったら、この画面に戻ってきます</p>
<p>「×」で Anki を閉じて終了します</p>	
<p>PC 版で学習しましたが、スマホ版で学習してもやることは変わりません</p>	

手動でカードを作る、は以上です。お疲れ様でした！！

Anki を使う最初を知るべきことだけ淡々と手順にしました。

他にもいろいろありすぎて盛りだくさんです。

うまくできた方はサイトの「ありがとう」ボタンまたは「フィードバック」からご連絡いただけるとよろこびます。

更新履歴

2021/09/05	初版
2021/09/06	「4.⑦スマホで同期」を追加
2022/04/08	AwesomeTTS の Generate using について追記 軽微な修正